



大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和4年6月17日
土井首小学校
文責：校長 江原芳樹
第5号

梅雨の季語に「四片（よひら）」があります。四片とは、紫陽花のことを指し、この時期に生き生きと咲き誇るその様子に親しみを込めた呼び名であると思います。もともと紫陽花は、ガクアジサイを原種とし、手毬状に大きく球状をつくる紫陽花は、品種改良されたものです。ガクアジサイは、装飾花を周囲に置き、中心に両性花があつまる形状です。その装飾花が四つの萼をもっていることから、四片との別名が生まれたのだと思います。

また、紫陽花はもともと集真藍（あずさあい）といわれていたようで、「真の藍色が集まった花」との意味をもっていました。

土壌の違いにより色を変えることから、「移り気」など、あまり良い印象ではない花言葉をもっていますが、寄せ集めた色とりどりの花を飾ってみると、ぱっと華やかな印象がします。

新型コロナウイルス感染症予防のため、未だ窮屈な生活を強いられていますが、季節を感じ、心を落ち着かせる時と場が、今こそ必要だと強く感じています。



土の子の心を見つめる教育週間

今週 19 日の日曜日から、来週 25 日の土曜日まで、「土の子の心を見つめる教育週間」を行います。平成 15 年から 3 年連続で長崎県では、児童生徒による重大事件が発生しました。当時は全国ニュースにもなり、強く印象に残っている方も多いと思います。

事件を通して感じたのは、「子どもの心が分からない」というものでした。

長崎県では、こうした事件の再発防止とともに、もう一度子どもに関わるすべての大人が、手を取り合って子どもと向き合っていこうと動き出しました。それが、「心を見つめる教育週間」です。

土井首小学校では、下記の通り、教育週間での取組を実施します。

これまで授業参観が実施できませんでしたが、はじめて授業参観・学級懇談会を実施する予定です。また、25 日（土）には土曜授業を実施し、各学年ごとに活動を中心とした計画を立てています。教育週間の趣旨をご理解いただき、ぜひご参会いただきますようお願いいたします。

20 日（月） 全校朝会（命に係る校長講話）、被爆体験講話、低学年授業参観・学級懇談会、1 年ファミリープログラム

22 日（水）ブックフレンド読み聞かせ（ビデオ視聴）、4 年福祉学習、高学年授業参観・学級懇談会

23 日（木） 民生委員学校参観

24 日（金） 中学年・ふれスマフレステ授業参観・学級懇談会

25 日（土） 土曜授業（詳しくは先日配付した別紙プリントを確認ください）

※土曜授業の日、子どもたちは通常登校ですが、参加される保護者の方は、各学年の活動時間に合わせて参加ください。



登校の様子が気になっています

今年の梅雨は、気温の変化が大きく、体調面での心配が考えられます。また、運動会が終わり、大きな目標がなくなったことで、やや無気力になりがちな時期です。

そうした学校リズムの特徴的な時期ではありますが、それとは別に登校の様子が気になっていることがあります。

登校時間が遅く、朝から元気がない子どもたちです。

「元気がない」ということは、誰しもあるでしょうが、登校時間が遅い子どもの元気のなさは、その回復に大きな時間を要しています。

登校時間が遅れると、①学習のとりかかりが遅れる、②周囲を待たせることになり学級への負担感を感じる、③時間への意識が低下するなど、様々な面で負の要素が発生し、それを挽回するが難しい状況にあるからでしょう。

生活リズムには、「大人時間」と「子ども時間」があり、特に「子ども時間」は脳や身体の発育に大きく影響すると言われ、昔から「早寝早起き、朝ごはん」という言葉で表現してきました。

土井首小学校では、「8時5分を目安に登校」をお願いしています。1日のスタートをみんなと共に迎えることができるよう、「子ども時間」について、ご家庭でも子どもたちと話をしてみてください。



《校長室散歩道 R4 版 No.5》

人は、どのように言葉を獲得していくのか、様々な観点から研究が行われています。その中に、興味深い話がありました。

人は、表情（感情）と音とを関連付けて言葉を獲得していくというのです。

初めて赤ちゃんが発する言葉の多くは、赤ちゃんがよく耳にする言葉で、その音を真似て発していると考えられることが多いようですが、実は、その音を発している人の表情（感情）を全身で捉え、心地よい感情と体感した音を獲得しているというのです。

その証拠として、生き物の中で唯一人間の赤ちゃんだけが、単純化した表情マーク（例えばにこにこマーク）に反応するのだそうです。他の動物は、動きのある者にのみ反応しますが、人間の赤ちゃんは良い感情のマークには、安心の表情となり、怒りの感情のマークには不安な表情となります。つまり、言葉を音として獲得しているのではなく、感情を表現するコミュニケーションのツールとして獲得しようとしているのです。

LINE 等の SNS トラブルが昨今増加しています。連絡調整のような伝達機能としては大変便利なツールですが、そこにはその人の表情がありません。トラブルの原因はそこにあるのかもしれない。

また、子どもたちのトラブルの多くは、言葉の未熟さから来ています。言葉の未熟さとは自分が発する言葉が相手に及ぼす影響を理解せずに使っている状態です。

人が言葉の意味を表情（感情）と関連付けて理解しているのであれば、真向かって話す他に、本意を伝える術はないように思います。